

＜君もそこにいたのか＞

マルコ15；16～32



「十字架の死」……神に呪われた者を意味した（申命記21章）

イエスさまの十字架は「私の上にある呪い」を御自身の上に引き受けてくださるためだった。 → ガラテヤ3：13

しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。
彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

イザヤ53：5

ローマ総督ピラトの裁判

免罪されるのはバラバかイエスか。

ピラトの弱点を突いた律法学者、パリサイ人達の策は敵中！

十字架に対して人々の反応 主に3つ

- ・十字架に架けられるイエスさまを^{あざけ}嘲る人
- ・自分とは関係ないことと切り捨てる人
- ・クレネ人シモンのように十字架を負う人

道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっしょになって、イエスをあざけって言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

【29～32節】

「自分は善、相手は悪」「自分は正しい、相手が間違っている」となれば人は容赦なく言いたいことを言う。

＊姦淫を犯した現場で取り押さえられた女性（ヨハネ 8 章）

婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。

わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今から決して罪を犯してはなりません。

ヨハネ 8 : 10, 11

全ての人は罪人ある／誰も人を裁くことはできない／赦しと裁きは神の主権にある
イエスさまの本質には絶対的な赦しがあり、その赦しの根拠は十字架の愛にある。

彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほど
さげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。
だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。 イザヤ 53: 3、4

◆どんなに侮辱されても十字架から降りなかったのは、十字架の周りで
好き勝手にしていた者たちや、私たちの救いを完了するため。

私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、
私たちのすべての咎を彼に負わせた彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。
ほふり場に引かれていく羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

イザヤ 53: 6、7

「もし神の子ならば、十字架から下りて見よ。そうすればあなたを信じよう」
解決が見られない問題対して、心の底に貯め込んできた神への不満や怒り。

自分にも似たよう思いがないだろうか・・・？

イエスさまは私たちの身勝手な叫びを黙って身に受け、呪われた者となり
身代わりの死を十字架で遂げてくださった。

新聖歌 113 番「君もそこにいたのか」

黒人霊歌「Were You There」の訳詞

十字架の下には大勢の人たちがいた。そして私もそこにいた・・・。

キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、
ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。
そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、
義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。
あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方
のもとに帰ったのです。

I ペテロ 2 : 22～25